

「一致団結して品質の向上に努めないと生き残れない」。京都府を中心に、中小の製造業11社が集結して設立したのが「小規模製造業EDI普及協議会」だ。各社の経営者らは共通のIT（情報技術）システムを導入することで、協力して品質改善に取り組む体制を



構築。競争力向上を図る取り組みを進めている。

協議会の設立を主導したのは、90人の従業員を擁する田中精工（京都府宇治市）の最高情報責任者（CIO）を務める坂本栄造氏（58）だ。田中精工はパナソニックなどに樹脂製の精密部品などを提供。高精度の部品を量産する技術力では海外

小規模製造業EDI普及協議会

（京都府宇治市）



左から坂本、坂田、藤田の各氏

共通IT基盤で一致団結

品質改善活動は各社がバラバラに行っている状態だった。「一貫した品質改善を実施するには、モノ（部品）と品質情報を結び付ける共通の情報基盤が不可欠だった」（坂本氏）

そこで坂本氏は、部品の受発注や工程の情報を一元管理するEDI（電子データ交換）システムの導入を決断。協力会社10社に呼びかけ、2007年4月に協議会を結成。IT導入を支援するITコーディネータ

す品質改善活動は各社がバラバラに行っている状態だった。「一貫した品質改善を実施するには、モノ（部品）と品質情報を結び付ける共通の情報基盤が不可欠だった」（坂本氏）

そこで坂本氏は、部品の受発注や工程の情報を一元管理するEDI（電子データ交換）システムの導入を決断。協力会社10社に呼びかけ、2007年4月に協議会を結成。IT導入を支援するITコーディネータ

ら「システムを入れればこんな点を改善できる」と利点を説いて回った」（坂田氏）。各社は次第に協力姿勢に転ずるようになった。坂本氏は、IT企業を経て84年に田中精工に入社。以来、生産管理システムの開発など同社のITシステムを一手に担った。「モノと品質情報を融合させる」という構想は、二十数年にわたり製造業向けITシステムに携わった坂本氏が長年温めていたものだ。

成し、稼働を始めた。どの工程でどの部品に不良品が多く発生したかがすぐに分かるため、迅速に対応できるようになり、不良率の低減につながった。

協力会社の1つであるフジタイト（京都府宇治市）は自社の伝票印刷システムを置き換えることでITコスト削減にも成功。藤田稔明社長（53）は「田中精工以外との取引でも、納品書などの伝票印刷にシステムを活用している」と話す。

企業を寄せ付けない。

だが、坂本氏は危機感をのこらせていた。田中精工が製造する精密部品の多くは、専門工程を地元の協力会社に委託していた。これまで田中精工や協力会社同士は受注・発注を紙伝票や電話で処理、不良品を減ら

の坂田岳史氏（48）の助力をとおぎ、ITを活用する勉強会を開催した。

坂田氏はNEC系のソフト開発会社を経て、00年に独立。京都を中心に中堅・中小企業へITの導入を支援するコンサルティング事業を開始。実直な語り口でITの利点を訴えるさまが顧客の信用を集めた。

模企業で、ITシステムへのなじみは薄い。坂本氏と坂田氏は2人で各社を精力的に訪問。「現場をみなが

システムは09年2月に完成し、稼働を始めた。どの工程でどの部品に不良品が多く発生したかがすぐに分かるため、迅速に対応できるようになり、不良率の低減につながった。

協力会社の1つであるフジタイト（京都府宇治市）は自社の伝票印刷システムを置き換えることでITコスト削減にも成功。藤田稔明社長（53）は「田中精工以外との取引でも、納品書などの伝票印刷にシステムを活用している」と話す。

（浅川直輝）